

- 久光製薬が子どもの足ののにおいに関する全国調査結果を発表 -

実は“パパよりクサイ”？ 子どもの足ののにおい

～ 約7割の親が足ののにおいの正体「雑菌」を知らない ～

～ 約8割の家庭で、子ども帰宅後ののにおいと雑菌が野放し状態に ～

久光製薬株式会社は、全国の3～15歳の子どもを持つ親1,570名を対象に、「子どもの足ののにおい・フットケア実態調査」を実施しました。

今回の調査で、家族の中で最も足ののにおいが気になるのは「子ども」がトップとなり、父親を上回る結果となりました。その悪臭は、「繁殖した雑菌のしわざ」が原因です。しかし、多くの親がこの事実を知らない状況であることが明らかになりました。また、子どもの足ののにおい対策として、帰宅後すぐの足洗いが習慣化している家庭は少なく、お風呂の時間まで先送りされがちであることも分かりました。

調査結果は、日本臨床皮膚科医会 会長／あたご皮フ科 副院長 江藤 隆史 先生に監修いただきました。

久光製薬「子どもの足ののにおい・フットケア実態調査」ハイライト

- 家族の中で足ののにおいが最も気になる人は「子ども」が29.4%とトップ。「父親」を上回った。
- 子どもの足ののにおいの原因と考えられることとして挙げられたのは、「足にかいた汗」が40.7%、次いで「靴や靴下の蒸れ」が25.9%。足ののにおいの原因が雑菌であることは「知らなかった」が68.4%にのぼり、多くの親が足ののにおいの正体を勘違いしている状況。
- 子どもの足ののにおい対策は、「帰宅後すぐに足を洗う」は23.7%にとどまり、お風呂に入るまで足の雑菌やにおいが野放し状態になっている傾向も明らかに。「手洗い・うがい」といった衛生習慣は84.0%の家庭で定着しているものの、足洗いの習慣はまだ浸透していない現状。
- 3～9歳の子どもの足を洗ってあげる際、帰宅後すぐ洗う派の子どもの「さっぱりしたと喜んでい」「気持ちよさそうにリラックスしている」といったポジティブな反応は、お風呂まで待つ派の倍以上。
- 10～15歳の子どもに足ののにおいを指摘すると、「素直に受け入れて自分で洗うようになった」と約半数の親が回答。セルフケアを行う成長が期待される。

< 調査結果詳細 >

① 子どもの足のおいに対する意識と原因

足のおい、気になるのは「子ども」

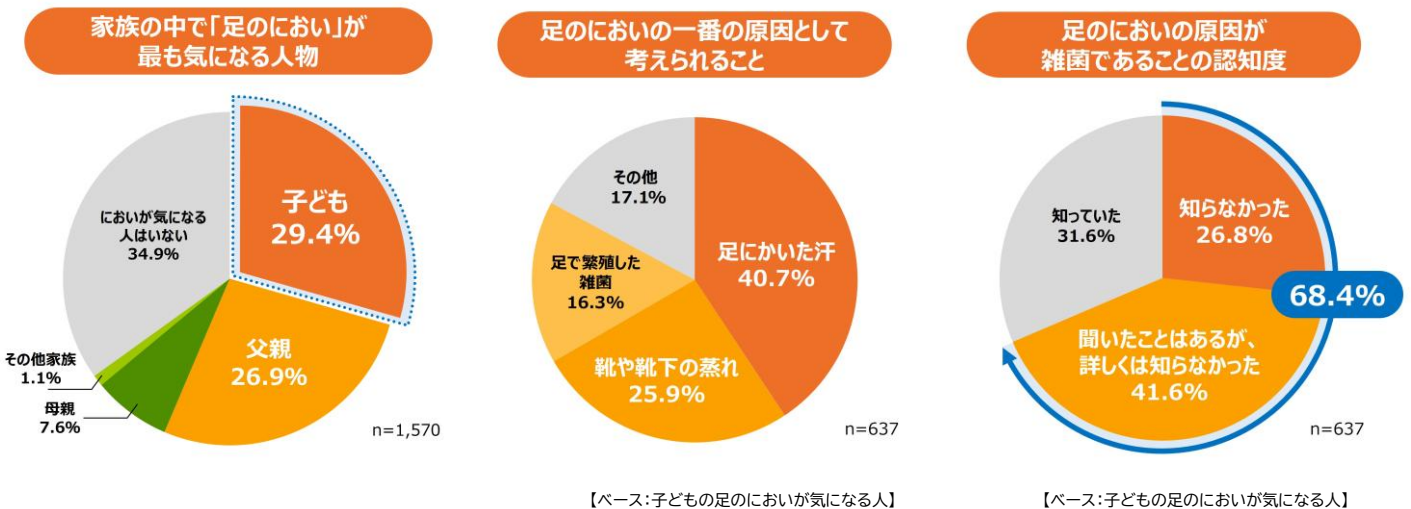
- 家族の中で足のおいが最も気になる人は「子ども」が 29.4%とトップ。「父親」を上回った。

足のおいの原因、約 7 割の親が誤解

- 子どもの足のおいの原因として挙げられたのは、「足にかいた汗」が 40.7%、次いで「靴や靴下の蒸れ」が 25.9%。
- 足のおいの原因が雑菌であることは「知らなかった」が 68.4%にのぼり、多くの親が足のおいの正体を勘違いしている状況。

家族の足のおいについて尋ねたところ、家族の中で最も気になるのは「子ども」がトップとなり、「父親」を上回る結果となりました。

おいの一番の原因として考えられることは、「足にかいた汗」が最も多く、「靴や靴下の蒸れ」が次いで挙げられました。実は、足の裏にかく汗は、本来は無臭なものです。足のおいは雑菌の繁殖により起こりますが、この原因を知らなかった親は約 7 割にのぼりました。



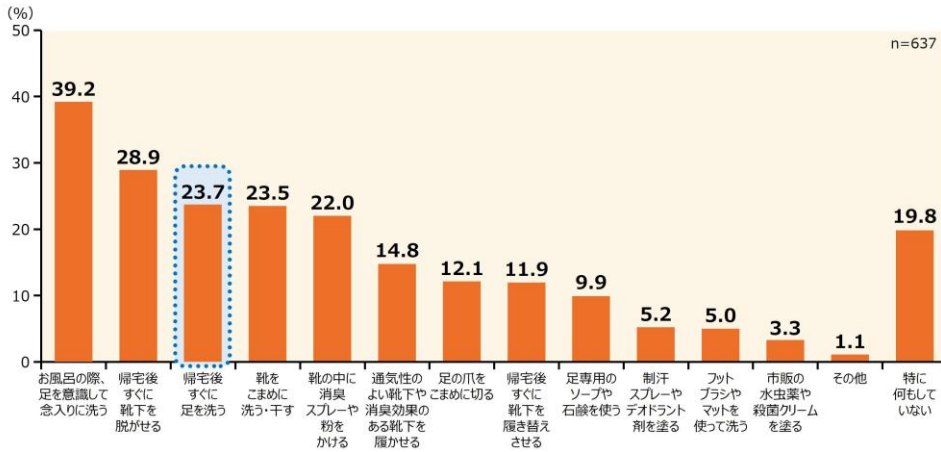
② 子どもの足のおい対策の実態

足のおい対策は入浴タイムまで先送りされがち

- 子どもの足のおいへの対策は、「帰宅後すぐに足を洗う」は 23.7%にとどまり、お風呂に入るまで足の雑菌やおいが野放し状態になっている傾向も明らかに。「手洗い・うがい」といった衛生習慣は 84.0%の家庭で定着しているものの、足洗いの習慣はまだ浸透していない現状。

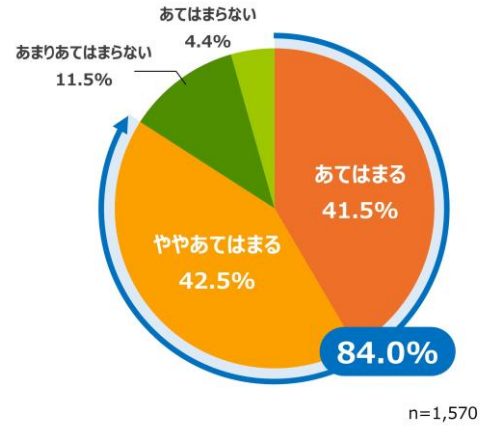
子どもの足のおいが気になっていても、におい対策はお風呂の時間まで行っていない親が多いことが分かりました。「手洗い・うがい」といった衛生習慣は 8 割を超える家庭で定着している一方で、「足洗い」の実施率はまだ低く、足の雑菌やおいを放置しがちであることがうかがえました。

子どもの足のにおい対策



【ベース:子どもの足のにおいが気になる人】

手洗い・うがいの習慣化



n=1,570

③ 「足洗い」がもたらすメリット

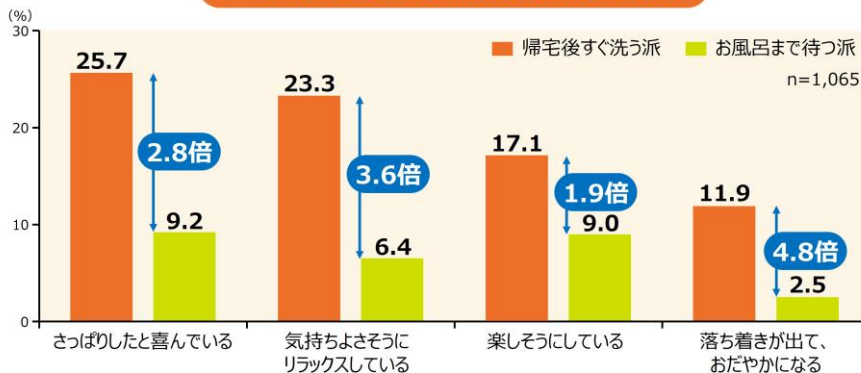
帰宅後すぐの足洗いで親子双方の気持ちをプラスに

- 3～9 歳の子どもの足を洗ってあげる際、帰宅後すぐ洗う派の子どもの「さっぱりしたと喜んでいる」「気持ちよさそうにリラックスしている」といったポジティブな反応は、お風呂まで待つ派の倍以上。
- 10～15 歳の子どもに足のにおいを指摘すると、「素直に受け入れて自分で洗うようになった」と約半数の親が回答。セルフケアを行う成長が期待される。

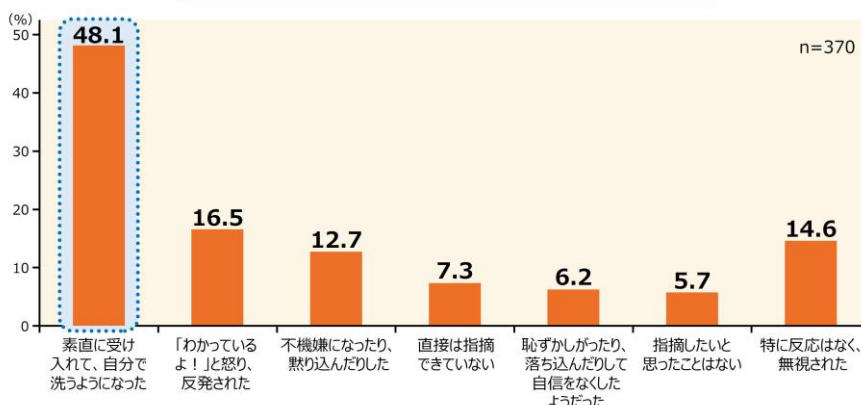
3～9 歳の子どもの足を洗ってあげる場合、いつ洗うかにより、子どもの反応にギャップがあることも明らかになりました。帰宅後すぐ洗う派は、お風呂まで待つ派よりも、子どもの気持ちのポジティブな変化を感じられていることが分かりました。

10～15 歳の子どもは、一人でもケアができるようになります。約半数が、足のにおいの指摘を素直に受け入れて自分で洗うようになったことが分かりました。一方で、気分を損ねることもあり得るため、専用ソープやブラシなどのアイテムをそっと置いておくといった、干渉しすぎないコミュニケーションも重要です。

3～9歳の子ども、足を洗ってあげる際の反応



10～15歳の子ども、足のにおい指摘後の反応



<専門家コメント>

江藤 隆史 先生

日本臨床皮膚科医会 会長／あたご皮フ科 副院長

子どもの足のにおいを解決する「足洗い」の重要性

今回、家族の中で足のにおいが気になるのは「子ども」という意外な事実が浮き彫りになりました。子どもの足のにおいに困っている方は、その原因が「異常に繁殖した雑菌」にあることを知り、適切にケアしていくことが重要です。足の裏にかく汗は、本来は無臭であり、起きている時にのみ発汗します。日中は靴を履いていることが多いと思いますが、この汗が靴内に閉じ込められたり、足の皮脂汚れが蓄積されたりすると、増殖した菌によって分解され、その産物が悪臭の原因となります。子どもの足は大人よりも汗腺密度が高く、毎日同じ靴を履くことなども、菌の増殖を助長し、足のにおいが生じやすくなります。

この予防や解消には、「足洗い」が欠かせません。多くの家庭で定着している帰宅後の「手洗い・うがい」に、「足洗い」を加えて、“新しい衛生習慣”として実践していただけたらと思います。足洗いは、殺菌成分を含む専用ソープをよく泡立てて、汚れのたまりやすい足の指・指の間も含め丁寧に洗うことが大切です。足は洗う前にぬるめのお湯で温めておくこと、爪は専用ブラシを使用してしっかり洗うことも重要です。

梅雨に入り、気温や湿度が高まるこれからの時期は、特に雑菌が繁殖しやすい環境になります。親子で足のケアを習慣にいただき、より良い時間を過ごしていただければと思います。

■ 調査概要

調査名：久光製薬「子どもの足のにおい・フットケア実態調査」

調査対象：全国の3～15歳の子どもを持つ親 1,570名

(長子の年齢:3～6歳 399名/7～9歳 382名/10～12歳 392名/13～15歳 397名)

調査方法：Webアンケート調査

調査期間：2026年3月10日～3月13日

調査機関：株式会社インテージヘルスケア

調査主体：久光製薬株式会社

※本調査における構成比(%)は小数点以下第二位を四捨五入しているため、合計しても100%にならない場合があります。

■ 久光製薬株式会社について

久光製薬は、世界10以上の国と地域を拠点に医薬品等の創製・育薬・製造・販売活動を行っております。足の皮膚トラブルに対しては、薬用ソープや水虫・たむし治療薬を含む「ブテナロック」シリーズを展開し、足を清潔に保つことの大切さや、正しいフットケア習慣の啓発に取り組んでおります。

— 本件に関するお問い合わせ先 —

久光製薬「子どもの足のにおい・フットケア実態調査」広報事務局

(株)ジェイ・ピーアール内 担当:石川・矢田・五十嵐

TEL:03-4531-1745 E-mail:hisamitsu_seminar@k-jpr.com